

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版, CASBEE埼玉版2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	IHI 鶴ヶ島工場 新拠点建設工事	階数	地上2F
建設地	圏央鶴ヶ島インターチェンジ東側土	構造	S造
用途地域	工業専用地域(現状 無指定)、準防	平均居住人員	200 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年9月25日
敷地面積	7,186 m ²	作成者	松田 行裕
建築面積	2,152 m ²	確認日	2018年9月25日
延床面積	4,150 m ²	確認者	松田 行裕



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: 60%: 80%: 100%: 100%超:

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 埼玉県鶴ヶ島市に計画された工場である。リサイクル材・節水器具を積極的に採用する等、環境負荷の低減に配慮した建物である。 CASBEE埼玉県2016年度版による評価である。		その他
Q1 室内環境 事務室の内装には吸音材を使用し、室内の音環境に配慮している。 全館禁煙として室内の空気環境に配慮している。	Q2 サービス性能 ゆとりある天井高、リフレッシュスペースの確保等により、居住者の快適性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 既存の緑を残し、生物環境の保全に配慮している。
LR1 エネルギー 外皮の高断熱化による熱負荷の抑制、高効率な設備システムの採用により環境負荷の低減を図っている。	LR2 資源・マテリアル 節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。 リサイクル材や再利用可能なユニット部材を使用し、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	LR3 敷地外環境 周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画とし、光害抑制を図っている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L:** Load (建築物の環境負荷), **LR:** Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), **BEE:** Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
IHI 鶴ヶ島工場 新拠点建設工事 事務棟

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C
 評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
0 建築物の環境品質									3.1
Q1 室内環境					0.40		-		3.2
1 音環境				3.3	0.15	-	-		3.3
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				3.4	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		Dr=40		4.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音		タイルカーペット、岩綿吸音板		4.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.5	0.35	-	-		2.5
2.1 室温制御				3.2	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		外壁U値:0.56W/m ² K、窓システムU値:3.37W/m ² K SC:0.26		4.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.4	0.25	-	-		3.4
3.1 昼光利用				2.4	0.30	-	-		
1 昼光率				2.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		500lx		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		1作業単位で制御、リモコンスイッチで調整可能		5.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.8	0.25	-	-		3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF の建築材料を採用。		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積:居室床面積の1/30以上		4.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能					0.30	-	-		3.3
1 機能性				3.4	0.40	-	-		3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高:2.8m、屋外の情報を得られる窓の設置		4.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースの確保、自販機等に類するサービスの提供		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した内装・外装設計等		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房用排気ダクトにステンレス鋼板を採用して長寿命化を図っている		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種以上にC以上を使用		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		停電時の飲料用水確保のため、受水槽に取水口を設置している		4.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、精密機器の地下設置回避等		5.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高平均:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI][BPIm] = 0.65	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.75	3.5	0.50	-	3.5
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓、省水型機器の採用	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.7	0.60	-	3.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.11	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			ビニル系床材(廊下等)、床タイル(風除室)、OAフロア(事務室等)の3品目を使用	5.0	0.22	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡系断熱材:ODP=0、GWP 1	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率:82%	3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	荷捌き用の駐車スペースを確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺への光害に配慮した屋外照明計画	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	IHI 鶴ヶ島工場 新拠点建設工事 事務棟	BEE	1.5	BEEランク
------	-----------------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.7	+	3.0	=	6.7	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	3.7
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.7
< 配慮した内容を記述 >			
高効率な設備機器の導入により、CO ₂ 排出量を抑制している。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 >			
既存緑地を残すことで、生物環境の保全を図るとともに、室外の温熱環境の向上に配慮している。建物を低層とし、敷地境界からセットバックした配置とすることで、敷地外への温熱環境に配慮した計画としている。			

: 入力欄